



学校通信

令和8年 7月17日
東京都立葛飾盲学校長
竹内 大吾
(第5号)

「夏休みを迎えるにあたって」

校長 竹内 大吾

先週前半までの梅雨の雨空はすっかりと消え、例年どおりの猛暑の日差しの厳しい、本格的な夏の訪れを感じる季節となりました。一学期最後の一週間、子供たちは暑さに負けることなく、元気に学習や活動に取り組んでいました。

そんな夏の日差しにも負けず、世間では、サッカーのW杯（ワールドカップ）、高校野球の地方大会、大相撲の名古屋場所など、さまざまなスポーツが盛り上がりを見せています。その中で、W杯の決勝トーナメントに進出し、健闘した西アフリカの小さな島国カーボベルデの「モラベザ」という言葉が話題となっております。この言葉は、他者への思いやりや温かさを意味する価値観であり、この精神の下で、選手間の結束や相互理解が高まり、W杯強豪国と互角に渡り合えるほどに、チーム力が上がったと言われております。

本校でも、一学期を振り返ると、新しい学年、新しい友達や先生との生活に少し緊張していた子供たちが、次第に友達にそっと声をかけたり、活動の中で一緒に取り組んだり、教え合ったり、相手の立場を思いやる、そんな何気ない行動の数々が、学校全体の温かい雰囲気を作りだしていました。「モラベザ」のような他者への思いやりや温かさは集団の中で、育まれていくものだと思います。

一学期は、その他にも、子供たち一人一人が自分らしく友達や先生と関わり、さまざまなことに挑戦する姿がたくさん見られるようになりました。一人一人が自分のペースで成長し、小さな「できた」を積み重ねてきたことは、何よりの喜びです。

さて、明日からは、いよいよ夏休みとなります。家族や地域の方々と過ごす時間が増えるこの時期だからこそ、子供たちには、「モラベザ」のような気持ちを大切にしてほしいと思います。家族に「ありがとう」と伝えること、出会った人に気持ちよく挨拶をすること、色々とお手伝いをしてみることで、そんな小さな行動の積み重ねが、心を豊かにし、更なる成長につながってくれることかと思えます。

また、長い休みだからこそ、家族で出かけたり、本を読んだり、新しいことにチャレンジしたり、ゆっくり過ごしたりと、それぞれのご家庭ならではの時間を大切にしてください。夏休みの経験は、二学期の学びや成長をより豊かなものにしてくれるはずです。

厳しい暑さが続く季節となります。健康管理や熱中症対策、交通安全に十分ご留意いただき、ご家族皆様が元気に充実した夏休みを過ごされますことを願っております。そして、二学期の始業式には、一回り成長した子供たちの笑顔に会えることを、教職員一同楽しみにしております。

「児童朝会・七夕集会（小学部）」

7月8日（水）の二時間目、幼稚部も一緒に七夕集会を行いました。七夕飾りや願い事を書いた短冊が笹に結ばれ、天井から大きな吹き流しも下がる中、六年生の司会でスタートしました。みんなでダンスをしたり、演奏、合唱などの発表をしたり、7・8月の誕生月の友達の紹介や、若手の先生たちの七夕にまつわる短い劇発表もあり、盛りだくさんの会となりました。みんなで楽しいひと時を過ごせました。短冊に書いた願い事がかなうように、元気に頑張っていきましょう。（文責）小学部 亀村 勉